

# 保育者養成課程に求められる教育内容の検討

— 愛知県西三河地域の保育者を対象とした調査から —

新 井 美 保 子

林 陽 子

中 村 治 人

**要 旨** 保育者養成校における教育課程は、多様な保育ニーズへの対応を考えて過密状態にある。そこで、本研究では、養成校において本当に必要な教育内容は何かということ、保育者対象の調査を実施して明らかにしようとした。その結果、養成校での学習に対する期待は全般的に高いものの、主として保育実践の理論的基盤となる原理系科目や、習得が難しい実技科目、一般教養科目、実習の充実が求められていることがわかった。

## 1. 問題と目的

保育士資格取得にかかわる養成カリキュラムが厚生労働省によって2001年に改正され、現在、施行2年目となる。その策定に当たっては、(社)全国保育士養成協議会でも研究プロジェクトを組み、現代社会における保育士の役割を再検討し、養成課程の見直しを行い、保育士養成資料集第30号(2000)等にその結果を報告している。また、それに関連して保母養成のあり方研究会より、保育所長に対する意識調査をまとめた「多様な保育ニーズに対応できる保母養成のあり方について・II」(1997)も出された。保育は社会的な課題の影響を大きく受ける分野であり、これまでは多様な保育ニーズに応えるべく、保育事業を次々と拡大してきた。それに伴って、保育者の果たすべき社会的な役割や責任もますます重大になってきており、広範囲な知識・技能と人間性の豊かな人材が保育者として求められるようになってきている。改正された養成課程では、「保育実習」の単位が、従来の必修5単位から7単位に増加した他、「家族援助論」、「障害児保育」、「養護内容」の新設・必修化、「乳児保育」の講義から演習科目化等、従来より幅広く学び、社会の様々な問題に対処できる知識を取得するとともに、子どもや保護者に対する援助方法をより具体的に学び身に付けることが求められるようになった。

一方、養成校の多くは保育士資格と幼稚園教諭免許状との同時取得を実施しており、そのような中で、保育者養成校のカリキュラムは、大変過密な状態にある。とりわけ養成校の大部分を占める短期大学においては、2年間で規定の科目を設定することが限界の状況にある。例えば、本学において学生が両免取得を希望すれば、2年間で44科目以上、88単位以上取得しなければならず、朝9時から夕方18時までの5時限授業も常態化している。また、授業週数の確保と実習期間の確保とのバランスも限界にきており、学生生活全体にわたってゆとりのもてない状況となっている。

このような過密な状況を解決するためには、第1に養成期間の延長が考えられる。例えば、2年間で養成から4年間での養成になれば、独自科目も開講できるゆとりができ、保育者として必要な知識や技能、資質等も高められると考えられる。実習面でも、4年間という長さを生かした設定と学びが可能であろう。近年、保育士資格が取得できる4年制大学が急速に増加してきたことも、受験生の4年制大学志向と共に、これらの理由があると考えられる。

しかし、保育士資格を取得できる4年制大学は平成14年度現在で75校、全保育士養成施設のわずか19.4%、入学定員においては14.3%にすぎない。それに対し短期大学は227校(58.8%)、入学定員は

68.7%を占めており、4年制大学での養成が急速に増加しているものの、依然として、短大・専修学校・養成施設等での2年間の養成が主流であるといえる。

そこで、第2の解決法として考えられることは養成校で学ぶ科目・内容の精選である。現行の保育士養成課程は、多様な保育ニーズに対応する教科目の設定を行い、保育士としての基礎を培うと共に様々な状況に対応できる広い視野をもった職業人の養成を目指した結果、養成校は文部科学省と厚生労働省から指定されたカリキュラムを実施するだけでも過密な、現在の状況を招いている。それでは、保育者としての専門性を維持することを前提とした上で、養成校で学ぶ科目・内容を現在よりも精選することを目指すことはできないのであろうか。

勿論、これまで文部科学省と厚生労働省から出されたカリキュラムもこの点についての配慮はなされており、例えば、現行の保育士養成課程が策定された時には、保育士資格と幼稚園教諭免許の同時取得をより容易にするために、幼稚園教諭養成課程との整合性の確保が図られた。従って、今後さらに科目・内容を精選していくとなると、方法としては、①幼稚園教諭免許と保育士資格の統合、②就職後の研修等も含めた長期的保育者養成教育制度の確立、が考えられる。

①については、幼保一元化（一体化）の動きが各地で見られている現在、資格の統合の可能性について議論していくことは急務である。愛知県内の場合でも、名古屋市を除くほとんどの市町村において、幼稚園教員免許状と保育士資格の両方の資格取得（予定）者でなければ、保育職（公立幼稚園及び公立保育所）の採用試験を受けられない。就職後は公立幼稚園と保育所間で転勤も行われている。将来的にも資格の統合がなされるとしたら、どのような養成カリキュラムが求められることになるのだろうか。保育の場において、保育対象が在園児以外にも広がり、その保護者も含めて個々の事情に応じた様々な対応が求められる始めた現状を考えると、改めて、乳幼児を保育するとは如何なることなのか、幼稚園および保育所の機能とは何か、保育者の専門性とは何かを改めて考える必要性がある。

②についても、同様に保育者の専門性についての議論を抜きにしては考えられないが、基本的な立場として、従来の、「養成校が在学生を対象に保育者養成を行う」という考え方から、「就職後も含めた長期間をかけて保育者を養成していく」という考え

方へ、転換する必要がある。現在、愛知県では保育士の現任研修制度として、20日間の中堅研修と50日間の園長・主任研修を実施しており、県下の私立大学・短大等で構成する「現任保育士研修運営協議会」が事業主体となり、県から委託されてその研修を実施している。本学も会場校の1つとして研修を実施しており、県内公私立保育所に勤務する保育士が、現職のまま火曜から金曜までの日中、週4日間×必要週、出張扱いで研修を受けに来ており、講師は県内の保育士養成校教員が中心となって、科目を担当し実施している。このような制度が幼稚園教諭も含めて保育者全体に整えば、保育者の職務や課題に応じた学びをその時々を実施することが可能となり、結果として、養成校段階で修得すべき内容も精選することができるのではないかと考えられる。

そこで本稿では、第1に、保育者を目指す学生が養成校において本当に学んでおく必要があるものは何かということを明らかにしていきたい。第2に、今後も増加していくと考えられる4年制大学における保育者養成について、実施する場合の科目・内容上の課題について明らかにしていきたい。

## 2. 方法

従来の研究は、保育者の専門性や必要なカリキュラムについて、前述したように養成校側の立場から検討しているものが多い。また、現職保育者に対する調査の場合も、保育者として必要とされる事項として「子どもと感動を共にできる」「十分に議論するが最後は協調・協力できる」などの人間性に関わる内容が主となっており、具体的な科目名や内容まで詳細に尋ねたものは見当たらない。そこで、この研究では、日々実際に保育に当たっている保育者の意見を知ること重要であると考え、保育者を対象に調査を実施し、養成校の教育内容のあり方について、できるだけ具体的に尋ねることにした。

(1)調査対象・方法：愛知県西三河地方の岡崎市、豊田市、刈谷市の全公私立幼稚園・保育所を対象に調査を実施した。調査用紙は園長を対象としたものと4年制大学卒の保育者を対象としたものの2種類を作成した。園別に郵送し、回答後個別に返送していただいた。調査対象幼稚園数は72園、保育所数は109カ所、計181カ所である。なお、4年制大学卒の保育者数は不明であったため、全幼稚園・保育所に園児規模に応じて2～5通、総数464通郵送した。

1)

(2)調査時期：2001年3月

表1 科目・内容の必要度 (242点満点)

位	科目・内容	点	位	科目・内容	点	位	科目・内容	点
1	指導計画の作成	233	19	保育所実習 (乳児)	208	37	リトミック・体操・遊戯	183
2	保育目標・方法論	230	20	実践記録の書き方	207	38	保育研究の方法	182
	ピアノ	230	21	運動・ゲーム・伝承遊び	204	39	施設実習 (養護施設)	179
4	発達心理学	228		幼稚園実習	204	40	家族福祉・社会福祉	170
	人間関係の発達と援助	228	23	保育制度・法規	201	41	音楽	161
	環境との関わりと援助	228	24	児童虐待	198	42	一般教養 (人権・環境)	157
7	子ども理解・遊び理解	227		子育て相談・保護者対応	198	43	劇	156
8	子どもの表現と援助	226	26	子育て支援	196	44	合奏・鼓笛の実践方法	154
9	救急処置・看護	225	27	身体表現 (自由表現)	194	45	壁面構成	146
10	疾病・安全対策	223	28	絵画・造形	193		一般教養 (哲学、他)	146
	言葉の獲得と援助	223		紙芝居・絵本・パネル	193	47	病後児保育	138
12	心身の健康と援助	221		食生活・栄養学・調理	193	48	文字・数の指導法	136
13	障害児保育	217	31	児童福祉・児童養護	192		手紙の書き方・園便り	136
14	保育所実習 (幼児)	215	32	自然物を使った遊び	191	50	情報処理・パソコン	128
15	手遊び・弾き歌い・歌	213	33	施設実習 (障害児施設)	189	51	教育実習 (小学校)	114
16	教育心理学	211	34	臨床心理学	187	52	外国語 (英会話)	103
17	生活上の常識・マナー	210	35	保育の歴史・思想	186	53	調査・統計処理	90
18	乳児保育	209	36	クラス運営方法	184	54	陶芸	87

(3)調査内容：A調査用紙（園長用）では、保育者養成校のカリキュラムについて、科目・内容の必要度、適切な学習の機会、4年制大学での保育者養成に求められる科目・内容を中心に尋ねた。科目・内容の項目については、現行の幼稚園教員および保育士の各養成課程やそのシラバス、前出の保母養成のあり方研究会（1997）を参考に、日頃の養成校での実践も加味しながら、できるだけ内容を明確にする方向で作成した。

B調査用紙（4年制大学卒業の保育者用）では、短期大学との教育内容の違い（一般教養科目、実習、保育・教育原理系科目及び心理学系科目、実技科目）、現職についてから学んだ方がよいと思う内容、養成校で学んできてほしい内容について尋ねた。

### 3. 調査結果と考察

#### A 園長を対象とした調査の結果

##### (1)回答者の特性

回答数は121カ所（回収率66.9%）であった。回答者の所属は、幼稚園58名（公立38名、私立20名）、保育所63名（公立55名、私立8名）、合計121名（公立93名、私立28名）であり、職名は107名（88.4%）が園長、10名（8.3%）が主任である。最終学歴は、短期大学75名（62.0%）、高等学校22名（18.2%）、

4年制大学15名（12.4%）、専門学校3名（2.5%）、大学院2名（1.7%）、その他4名（3.3%）である。

##### (2)保育者養成校のカリキュラムについて

###### ①科目・内容の必要度について

列挙した54項目の科目・内容について、保育者として学ぶことの必要度を、「是非とも必要」「できれば学んだ方がよい」「学ばなくてよい」の選択肢で尋ねた。「是非必要」を2点、「できれば」を1点としその合計点から順位を出したものが表1である（満点は121名×2点=242点）。結果を見ると、「指導計画の作成」「保育目標・方法論」「発達心理学」「子ども理解・遊び理解」等の、子どもをどのように捉え理解し、どのような見通しの下でどう援助するかという保育の基本部分に関わる科目・内容と、「人間関係の発達と援助」「環境との関わりと援助」「子どもの表現と援助」等のいわゆる5領域に関する科目・内容、および「救急処置・看護」「疾病・安全対策」等の健康・安全に関わる科目・内容が上位を占めている。続いて、「保育所実習」「手遊び・弾き歌い・歌」「運動・ゲーム・伝承遊び」「生活上の常識・マナー」等の実技・実習系の科目・内容となっている。「調査・統計処理」「外国語（英会話）」「情報処理・パソコン」等は必要度が低くなっている。また、「ピアノ」（2位）は、音楽系の他の科目

表2 科目・内容の必要度（幼稚園）

位	科目・内容	点 (%)
1	ピアノ	114 (98.3)
2	指導計画の作成	111 (95.7)
	人間関係の発達と援助	111 (95.7)
	環境との関わりと援助	111 (95.7)
5	子どもの表現と援助	109 (94.0)
6	発達心理学	108 (93.1)
7	保育目標・方法論	107 (92.2)
	言葉の獲得と援助	107 (92.2)
	幼稚園実習	107 (92.2)
10	救急処置・看護	106 (91.4)
	心身の健康と援助	106 (91.4)
12	子ども理解・遊び理解	105 (90.5)
13	手遊び・弾き歌い・歌	103 (88.8)
	障害児保育	103 (88.8)
15	疾病・安全対策	102 (87.9)

(116点満点)

表3 科目・内容の必要度（保育所）

位	科目・内容	点 (%)
1	保育目標・方法論	123 (97.6)
2	指導計画の作成	122 (96.8)
	子ども理解・遊び理解	122 (96.8)
	保育所実習（幼児）	122 (96.8)
5	保育所実習（乳児）	121 (96.0)
	疾病・安全対策	121 (96.0)
7	発達心理学	120 (95.2)
8	救急処置・看護	119 (94.4)
9	人間関係の発達と援助	117 (92.9)
	環境との関わりと援助	117 (92.9)
	子どもの表現と援助	117 (92.9)
12	言葉の獲得と援助	116 (92.1)
	乳児保育	116 (92.1)
	ピアノ	116 (92.1)
	保育制度・法規	116 (92.1)

(126点満点)

（「手遊び・弾き歌い・歌」（15位）、「声楽」（41位）、「合奏・鼓笛の実践方法」（44位））に比べて高く、また他の実技系科目と比べても、学習の必要度への意識が非常に高いことがわかる。

幼稚園と保育所別に比較してみると（表2・3）、幼稚園では「ピアノ」が1位（114点）で、回答者58名のほぼ全員が「是非必要」と答えていることがわかる。続いて5領域や指導計画に関する科目・内容が上位に並び、5領域に基づいた子どもの発達と保育内容・方法の学びを重視していることがうかがわれる。保育所では「保育目標・方法論」「指導計画の作成」に続いて「子ども理解・遊び理解」や「保育所実習」「疾病・安全対策」が並び、子どもと直接的・具体的に関わりながら子どもを理解し援助方法を考えていくことを重視していることがうかがわれる。また、15位以下を含め、全体的に各科目・内容に対する必要度（%）は保育所の方が高く、特に「保育制度・法規」「保育の歴史・思想」「児童福祉・児童養護」等では15%以上保育所の方が幼稚園より高くなっている。反対に保育所より幼稚園が高い項目は、5領域や「合奏・鼓笛の実践方法」「壁面構成」「情報処理・パソコン」等16項目あるが、いずれも10%未満の僅差である。

## ②学習する機会

これらの科目・内容を学ぶ適切な機会を探るために、①で「是非必要」「できれば学んだ方がよい」と回答したものについて、主として学べばよいと考

える機会を「養成校」「保育の場」「初任者研修」「中堅研修」「園長・主任研修」「その他」の中から1つ選択してもらった。その結果、54項目中52項目において「養成校」の割合が1位であり、養成校で学ぶことに対する期待の大きさが明らかになった。その中で「養成校で」という回答が過半数に達している科目・内容も48項目、順位47位までを占めている（表4参照）。上位には、「発達心理学」「教育心理学」「臨床心理学」の心理系科目や、「保育の歴史・思想」「保育制度・法規」「保育目標・方法論」の保育理論系科目、「一般教養」、そして「児童福祉・児童養護」「家族福祉・社会福祉」の福祉系科目など、心理・保育・福祉系のいわゆる原理系科目や一般教養が並び、養成校という場と時期を生かした学習としてこれらが期待されていると考えられる。その中で、「ピアノ」は5位、「声楽」も11位と、他の実技系科目と比較して高くなっており、これらも養成校以外では学習しにくい内容であると捉えられていることがわかる。

次に、幼稚園と保育所別では、全体的に保育所の方が幼稚園よりも「養成校」とする割合が高くなっており、学習の機会としての「養成校」への期待の大きさがうかがわれる。具体的には、例えば全体で47位の「劇」は、幼稚園で37.0%であるのに対し、保育所では70.2%と33.2%も高いほか、「児童福祉・児童養護」「食生活・栄養学・調理」「家族福祉・社会福祉」「言葉の獲得と援助」「人間関係の発達と援

表4 各科目・内容における「養成校」で学ばないと考えている割合

全 体			幼稚園		保育所	
位	科 目 ・ 内 容	人 (%)	位	人 (%)	位	人 (%)
1	発達心理学	108 (94.7)	6	48 (88.9)	1	60 (98.4)
	教育心理学	107 (94.7)	1	48 (92.3)	2	59 (96.7)
3	保育の歴史・思想	103 (92.8)	3	47 (90.4)	4	56 (94.9)
4	臨床心理学	98 (91.6)	7	44 (88.0)	6	54 (91.5)
5	ピアノ	102 (91.1)	5	49 (89.1)	8	53 (93.0)
6	一般教養 (人権・環境等)	91 (90.1)	4	44 (89.8)	11	47 (90.4)
7	一般教養 (哲学・文学等)	87 (89.7)	2	43 (91.5)	12	44 (88.0)
8	保育制度・法規	100 (89.3)	9	46 (86.8)	9	54 (91.5)
9	児童福祉・児童養護	95 (88.0)	12	38 (79.2)	3	57 (95.0)
10	食生活・栄養学・調理	95 (87.2)	15	39 (78.0)	4	56 (94.9)
11	音楽	84 (86.6)	8	42 (87.5)	33	42 (85.7)
12	保育目標・方法論	94 (86.2)	11	41 (80.4)	10	53 (91.4)
13	家族福祉・社会福祉	89 (84.8)	17	35 (74.5)	7	54 (93.1)
14	心身の健康と援助	92 (82.9)	13	41 (78.8)	13	51 (86.4)
15	生活上の常識・マナー	82 (79.6)	10	38 (80.9)	21	44 (78.6)
16	環境との関わりと援助	85 (78.7)	20	37 (72.5)	16	48 (84.2)
17	乳児保育	84 (78.5)	13	41 (78.8)	22	43 (78.2)
18	言葉の獲得と援助	86 (78.2)	22	35 (70.0)	14	51 (85.0)
19	人間関係の発達と援助	84 (77.1)	24	35 (68.6)	15	49 (84.5)
20	身体表現 (自由表現)	79 (76.7)	22	34 (72.3)	18	45 (80.4)
21	子どもの表現と援助	85 (76.6)	24	35 (68.6)	17	50 (83.3)
22	手遊び・弾き歌い・歌	80 (74.8)	18	37 (74.0)	25	43 (75.5)
23	指導計画の作成	80 (74.1)	27	33 (67.3)	19	47 (79.7)
24	障害児保育	82 (73.9)	16	45 (77.6)	29	42 (73.6)
25	運動・ゲーム・伝承遊び	73 (70.9)	31	30 (65.2)	25	43 (75.5)
26	リトミック・体操・遊戯	73 (70.2)	29	31 (66.0)	28	42 (73.7)
27	絵画・造形	70 (70.0)	39	27 (58.7)	20	43 (79.6)
28	疾病・安全対策	71 (69.6)	36	28 (60.9)	23	43 (76.8)
29	教育実習 (幼稚園)	69 (69.0)	26	34 (68.0)	36	35 (70.0)
30	救急処置・看護	73 (68.9)	38	29 (60.4)	24	44 (75.9)
	教育実習 (小学校)	51 (68.9)	35	22 (62.9)	27	29 (74.4)
32	保育所実習 (乳児)	75 (68.8)	18	37 (74.0)	38	38 (64.4)
33	保育所実習 (幼児)	75 (68.2)	20	37 (72.5)	38	38 (64.4)
34	合奏・鼓笛の実践方法	61 (66.3)	32	28 (65.1)	37	33 (67.3)
35	施設実習 (養護施設)	68 (64.8)	29	33 (66.0)	42	35 (63.6)
36	紙芝居・絵本・パネル	67 (64.4)	40	27 (55.1)	30	40 (72.7)
37	施設実習 (障害児施設)	68 (64.2)	28	34 (66.7)	46	34 (61.8)
38	子ども理解・遊び理解	69 (63.9)	41	26 (54.2)	32	43 (71.7)
39	情報処理・パソコン操作	58 (63.7)	33	28 (63.6)	41	30 (63.8)
40	文字・数の指導法	57 (63.3)	43	21 (52.5)	31	36 (72.0)
41	外国語 (英会話)	52 (61.2)	34	24 (63.2)	47	28 (59.6)
42	児童虐待	60 (58.8)	42	25 (53.2)	42	35 (63.6)
43	調査・統計処理	42 (58.3)	46	15 (44.1)	34	27 (71.1)
44	病後児保育	57 (58.2)	37	26 (60.5)	48	31 (56.4)
45	保育研究の方法	57 (57.0)	44	23 (48.9)	40	34 (64.2)
46	実践記録の書き方	55 (55.0)	46	20 (44.4)	42	35 (63.6)
47	劇	50 (53.8)	50	17 (37.0)	35	33 (70.2)
	自然物を使った遊び	56 (53.8)	47	22 (44.0)	45	34 (63.0)
49	壁面構成	44 (47.3)	48	20 (41.7)	49	24 (53.4)
50	陶芸	30 (46.9)	49	12 (40.0)	50	18 (53.0)
51	クラス運営方法	42 (42.6)	52	15 (33.3)	51	28 (50.0)
52	手紙の書き方・園便り	35 (37.6)	51	15 (35.7)	53	20 (39.2)
53	子育て支援	37 (36.3)	54	14 (29.8)	52	23 (41.8)
54	子育て相談・保護者対応	36 (34.6)	52	16 (33.3)	54	20 (35.7)

表5 各科目・内容における「保育の場」で学ばよいつと考えている割合

全 体			幼稚園		保育所	
位	科 目 ・ 内 容	人 (%)	位	人 (%)	位	人 (%)
1	子育て相談・保護者対応	43 (41.3)	3	21 (42.0)	1	22 (39.3)
2	壁面構成	39 (41.9)	1	23 (47.9)	3	16 (35.6)
3	クラス運営方法	39 (38.6)	7	18 (40.0)	2	21 (37.5)
4	手紙の書き方・園便り	35 (37.6)	2	18 (42.9)	4	17 (33.3)
5	自然物を使った遊び	36 (34.6)	3	21 (42.0)	10	15 (27.8)
6	子育て支援	33 (32.4)	6	19 (40.4)	12	14 (25.5)
7	劇	30 (32.3)	5	19 (41.3)	14	11 (23.4)
8	実践記録の書き方	32 (32.0)	9	16 (35.6)	8	16 (29.1)
9	子ども理解・遊び理解	32 (29.6)	11	16 (33.3)	11	16 (26.7)
10	紙芝居・絵本・パネル	29 (27.9)	10	17 (34.7)	16	12 (21.8)

表6 各科目・内容における「初任者研修」で学ばよいつと考えている割合

全 体			幼稚園		保育所	
位	科 目 ・ 内 容	人 (%)	位	人 (%)	位	人 (%)
1	救急処置・看護	14 (13.2)	3	7 (14.6)	1	7 (12.1)
2	実践記録の書き方	13 (13.0)	2	9 (20.0)	4	4 (7.3)
3	クラス運営方法	13 (12.9)	1	10 (22.2)	9	3 (5.4)
4	疾病・安全対策	11 (10.8)	5	6 (13.0)	2	5 (8.9)
5	手紙の書き方・園便り	9 (9.7)	8	5 (11.9)	3	4 (7.8)

表7 各科目・内容における「中堅研修」で学ばよいつと考えている割合

全 体			幼稚園	保育所
位	科 目 ・ 内 容	人 (%)	人 (%)	人 (%)
1	病後児保育	9 (9.2)	4 (9.3)	5 (9.1)
2	保育研究の方法	9 (9.0)	5 (10.6)	4 (7.5)
3	子育て支援	7 (6.9)	1 (2.1)	6 (10.9)
4	子育て相談・保護者対応	7 (6.7)	4 (8.0)	3 (5.4)
5	児童虐待	6 (5.9)	4 (8.5)	2 (3.6)

助)「絵画・造形」「疾病・安全対策」「救急処置・看護」など、16項目に渡って保育所の方が15%以上も高くなっている。その理由については今回の調査では不明であり、就職後の研修の状況や施設が置かれている状況等も考えながら、今後、その背景を探っていく必要がある。

「保育の場」で学ばよいつとする科目・内容は表5のとおりである。「子育て相談・保護者対応」や「クラス運営方法」などの実際に子どもや保護者と接しながら学んでいく内容や、「壁面構成」「自然物を使った遊び」「劇」などの実技系の内容が上位に挙げられている。

表6は「初任者研修」で学ばよいつとする項目で

ある。「救急処置・看護」や「疾病・安全対策」といった保健・安全に関わる科目・内容や、日々の保育実践・クラス運営に関わる科目が挙げられている。

表7は「中堅研修」で学ばよいつとする項目である。「病後児保育」「子育て支援」など、園を取り巻く社会的課題に対処する項目や、「保育研究の方法」など、園内で中堅保育者として力を発揮する時期に必要なと考えられる項目が挙げられている。

表8は、「園長・主任研修」で学ばよいつとする項目である。「中堅研修」と同様に、「子育て支援」「子育て相談・保護者対応」「児童虐待」等の社会的諸課題に対処する項目が上位に挙げられている。

これらを通して考えてみると、全体として養成校

表8 各科目・内容における「園長・主任研修」で学ばよいと考えている割合

全 体		幼稚園	保育所
位	科目・内容	人 (%)	人 (%)
1	子育て支援	20 (19.6)	11 (23.4)
2	子育て相談・保護者対応	10 (9.6)	3 (6.0)
3	児童虐待	9 (8.8)	4 (8.5)
4	手紙の書き方・園便り	4 (4.3)	1 (2.4)
5	保育研究の方法	3 (3.0)	2 (4.3)

表9-1 4年制大学での保育者養成において充実させたい科目・内容

全 体			全 体		
位	科目・内容	人 (%)	位	科目・内容	人 (%)
1	子ども理解・遊び理解	36 (36.4)	10	保育所実習(乳児)	12 (12.1)
2	発達心理学	32 (32.3)	11	保育研究の方法	11 (11.1)
3	人間関係の発達と援助	28 (28.3)		クラス運営方法	11 (11.1)
4	指導計画の作成	24 (24.2)		環境との関わりと援助	11 (11.1)
5	保育目標・方法論	21 (21.2)	14	臨床心理学	10 (10.1)
	生活上の常識・マナー	21 (21.2)	15	障害児保育	9 (9.1)
7	教育実習(幼稚園)	17 (17.2)			子育て相談・保護者対応
8	保育所実習(幼児)	13 (13.1)	17	保育の歴史・思想	8 (8.0)
	実践記録の書き方	13 (13.1)			ピアノ

表9-2 4年制大学での保育者養成において充実させたい科目・内容(幼・保別)

幼 稚 園			保 育 所		
位	科目・内容	人 (%)	位	科目・内容	人 (%)
1	子ども理解・遊び理解	21 (42.9)	1	発達心理学	16 (32.0)
2	発達心理学	16 (32.7)			人間関係の発達と援助
3	教育実習(幼稚園)	15 (30.6)	3	子ども理解・遊び理解	15 (30.0)
4	人間関係の発達と援助	12 (24.5)	4	保育目標・方法論	14 (28.0)
5	指導計画の作成	11 (22.4)	5	指導計画の作成	13 (26.0)
6	生活上の常識・マナー	10 (20.4)	6	生活上の常識・マナー	11 (22.0)
7	保育目標・方法論	7 (14.3)	7	保育所実習(乳児)	8 (16.0)
	環境との関わりと援助	7 (14.3)	8	保育所実習(幼児)	7 (14.0)
	クラス運営	7 (14.3)			実践記録の書き方

への学習期待は高いものの、就職後に子どもや保護者と関わる中でより深く具体的に学べる内容もあり、養成校の学習内容を考えていく上で、その後の保育者の就業状況に合わせた学習内容と学習機会の提供のあり方も検討していくことが求められているといえる。また、保育実践面では幼稚園と保育所の共通点も多いように見受けられるものの、この調査では幼稚園と保育所との差も多くあり、それぞれの機能や役割の違いがその背景として根強くあるのではないかと考えられる。

③4年制大学における保育者養成において充実させたい科目・内容

4年制大学での保育者養成において、これら54項目中で特に充実した方が良いと思われるものを4つまでの複数回答で求めたところ、表9-1、表9-2のとおり、「子ども理解・遊び理解」「発達心理学」「人間関係の発達と援助」「指導計画の作成」「実習」等が上位に挙げられており、乳幼児の発達理解と援助に直接的に関わる科目の充実が求められていることがわかった。社会的には様々な保育ニーズがあり、

表10 自らの学習体験と短大教育との違い ①一般教養科目 (全42項目)  
(記述された意見の類似カテゴリー別集計：以下同様)

積極的評価 (26)	選択肢が多い・自由に選べる・興味のあるものが選べる	14
	ゆったり学べる・時間の余裕がある	6
	内容が充実・実践の前に原理で深く学べる	3
	とらなければならない科目が多い・重要視されている	2
	知識・考え方が広まる、保育ばかりになりすぎず良い	1
短大のイメージ (4)	短大は充実していない・時間がなく忙しい	3
	短大の方が少人数	1
消極的・批判的指摘 (6)	より実践的なものを望む	1
	高校の復習	1
その他 (10)	特に違いはない	7
	分からない	1
	非該当	2

4年制大学での保育者養成では、その中からさらに特定の分野を深く学修したり、新たな資格取得を目指すなどの付加価値を高めた養成方法も可能であると考えられる。しかし、今回の調査からは、前述の「①科目・内容の必要度」の結果とも照らし合わせて考えてみると、むしろ表9に挙げられたこれらの科目・内容の充実を図っていく必要があるのではないかと考えられる。また、5位には「生活上の常識・マナー」が挙げられている。その具体的内容の検討も必要であろうが、養成校としてどのような対応が可能であるのか、学生や社会の実態に即して検討していく必要がある。

#### ④まとめ

具体的に養成校における教育内容を考える場合、表1(科目・内容の必要度)と表4(養成校で学ばよと考えている割合)の結果をトータルして検討していかなければならない。例えば、表1で2位の「ピアノ」や4位の「発達心理学」は、表4においても各々5位、1位と上位にあり、養成校の教育内容として特に重要であると考えられる。しかし、表4で6位、7位にある「一般教養」は、表1では各々42位、45位と低い。このように必要度は低いが、学ぶとしたら養成校が最適と考えられる科目・内容の取り扱いをどうするのか、教育課程として検討の求められるところである。また、表1で1位の「指導計画の作成」は表4において23位(74.1%)と、他の科目と比較して、養成校に対する期待は決して高くない。しかし、他の学習機会においても上位には挙がっておらず、必要度はありながらも学習機会が明確に定まっていないと考えられる。このような科目・内容についても、今後どのような学習の機会

を保障していくのか、検討が必要である。

#### B 4年制大学卒業保育者を対象とした調査の結果

##### (1)回答者の特性

回答者数は79名(幼稚園49名、保育所29名、不明1名)であり、職名別では園長6名、主任5名、常勤保育者56名、臨時保育者12名であった。また、担当クラスは3歳未満児が9名、3歳以上が56名、フリーが4名である。

##### (2)短期大学との教育内容の違い

自らが体験してきた養成教育の内容について、短期大学とどのように違うと思うか、自由記述で尋ねたところ、次のような結果を得た。

##### ①一般教養科目について

一般教養科目については、表10に示したとおり延べ42項目の意見があり、そのうちの26項目(61.9%)は、比較的積極的な評価をしたものであった。中でも、「選択肢が多い」「必須科目の他に興味のあるものが学べる」「ゆったり学べる」などの意見が目立ち、短大とは違う教育の厚みと広がりやを反映している。また、「知識・考え方が広まる。保育ばかりになりすぎず良い」という指摘もみられた。その他、「より実践的なものを望む」など、消極的・批判的な指摘も6項目、「特に違いはない」とする意見も7項目あった。

##### ②実習について

実習については、表11に示したとおり延べ54項目の記述があった。「自由な時間が多いので、自分からいろいろな施設で自主的に実習できる期間がある」「小学校、保育所、幼稚園と、多くの場所で長期間実習させてもらえる」「実習や研究が自由に行える」など、種類・期間ともに実習への積極的な評



表11 自らの学習体験と短大教育との違い ②実習について (全54項目)

積極的評価 (10)	長期間学べる	5
	自由な時間が多いので自分からいろいろ学べる	2
	多くの場所で学べる	1
	実習と研究が自由に行える	1
	ゆとりがある	1
消極的・批判的指摘 (23)	保育所で実習していない (種類が少ない)	12
	少ない・短い・4年次に1ヶ月のみ	10
	観察・見学実習がない	1
短大のイメージ (13)	短大の方が種類が多い	6
	短大の方が実習時間が多い	5
	短大の方が忙しそう	1
	短大の方が実践的	1
その他 (8)	種類・期間が違う	1
	近い園・勤めたい園での実習がしかなかった	1
	時期が悪かった	1
	1ヶ月以上が望ましい	1
	専攻によって色々だった	1
	特にない・分からない	3

表12 自らの学習体験と短大教育との違い ③保育・教育原理系及び心理学系 (全42項目)

積極的評価 (13)	深く充実した学び・幅広く学べる	7
	ゆっくり長いスパンで学べる	3
	専門的に学べる	2
	実践を踏まえて原理を学ぶことができる	1
消極的・批判的指摘 (9)	現場からほど遠い・役だっているか疑問・もっと実践的なものを	4
	小学校の教育に関することが多い・小学校と合同	3
	広く浅い	1
	原文で読む意義はない	1
短大のイメージ (2)	短大の方が詳しい	1
	短大は丸覚え	1
その他 (18)	短大と変わらない	9
	分からない	5
	非該当	4

価がうかがえる意見が10項目 (18.5%) 見られる一方で、「4年次に1ヵ月のみ」「保育所で実習していない」「実習の段階 (種類) として観察・見学実習がない」など、日数や実習施設 (種類) についての消極的・批判的指摘が23項目 (42.6%) と多くみられた。特に小・中学校教員養成を主たる目的とする学部や保育士試験による資格取得者からは、制度上の問題を指摘する意見もみられた。

③保育・教育原理系科目及び心理学系科目について

「保育原理」等、専門科目の中の原理系科目については、表12に示したとおり、延べ42項目の記述があった。そのうちの13項目 (31.0%) は積極的に評価する意見であったが、残りは短大とあまり変わらないとする意見であった。しかし、中には積極的な評価をする意見には興味深い内容が多く、「1, 2年で全般をかいつまんで勉強し、3, 4年で心理学でも何の心理学を勉強していきたいか専攻できるため、内容が深く探っていける」「一般のカウンセリングについてや教育 (保育) 現場におけるロールプ

表13 自らの学習体験と短大教育との違い ④実技科目（全52項目）

積極的評価（3）	ゆとりがある	1
	選択肢が多い	1
	小人数で丁寧	1
消極的・批判的指摘（18）	時間・内容に不足	12
	実際・実践に役立つものが少ない	3
	芸術的・個人の技能向上を目指していた	3
短大のイメージ（17）	内容が豊富で力を入れている	9
	実践的なものを教えてもらえる	5
	細かいところまで指導される	1
	充実していない	1
	ピアノが難しい	1
その他（14）	違いは少ない・ほとんど同じ	7
	本人次第	3
	情報処理技術が必要	1
	分からない	3

レイングをよく行った。そういう演習科目の時間をより多くとることができる」「幼児教育だけに限らず教育一般について幅広く学べる」「長いスパンでゆとりをもって専門的に深く学べる」など、保育・子ども・家族・社会等に関して深く専門的に学べることを評価している意見も散見される。このような積極的な意見が見られる一方で、「ピアジェの本を原文などで勉強したが、原文で読む意義はなく、日本語訳で十分である」「1～2年の間に行われることが多いため、単位をとるためだけの授業（講義）であり、漠然とした難しい話であるので、実際身になっていないと思う」などの批判的意見や、メリットが感じられない教育内容であったとする指摘もある。

#### ④実技科目について

実技科目については、表13に示したとおり、延べ52項目の記述があったが、そのうちの17項目（32.7%）は、短大での実技教育についてのイメージを述べたものであった。その内容を一言でいえば、「短大では実践に役立つものを多く学べる」「実技に力を入れている」というものである。このことは逆に4年制大学での実技教育の不十分さを指摘しているとも考えられる。加えて、18項目（34.6%）は、4年制大学での実技教育の不足、すなわち時間の少なさと、実践に役に立たない内容への不満を述べている。不足していると感じている具体的な実技内容は「手遊び」「素話」「リズム遊び」「歌遊び」「子どもの歌のピアノ曲」などである。このことは、これ

らが実際に保育現場でかなり重視される内容であると意識されていることを意味している。特にピアノへの認識は、調査Aの結果で述べた園長の要望とも一致するところである。

しかしながら、「ゆとりをもって取り組み、自分たちで考えながら進んでいける」「時間もたっぷりあり、教授の人数も多いので自分で選択ができる」「少人数だったのでゆっくり丁寧だった」など、ゆとりあるカリキュラムを窺わせる意見も少数見られた。

以上の自由記述から、積極的な評価は1位「一般教養科目」、2位「保育・教育原理系及び心理学系科目」、3位「実習」、4位「実技科目」の順で多くみられた。また、これに関連して「日常の保育において学歴を意識するかどうか」尋ねたところ、幼・保で差はほとんど無く、7割以上の保育者が「あまりない」と答えており、保育実践の中で保育の力量に関わる場所での学歴差はあまり意識されていないと言える。

#### (3)現職についてから学んだ方がよいと思うこと

大学時代に学んだことのうち、現職に就いてから学んだ方がよいと思うことについて自由記述で回答を求めたところ、延べ34項目の記述があった。教科目としては、発達心理学、児童心理学、教育心理学など、心理学関係の科目があげられた。保育理論に関しては、教科目というより、保育目標、実践記録、保育指針、保育のねらい等、個々の具体的な内容があげられた。これらはいずれも、実際に保育に携わる中で、子どもとはどういう存在であり、保育実践

表14 現職についてから学んだ方がよいと思う科目または内容（全34項）

教科目（6）	発達・発達心理学	3
	児童心理学	1
	教育心理学	1
	すべての講義	1
保育理論の具体的分野 (10)	保育指針・保育目標・ねらい	3
	保護者対応	3
	こどもとのかかわり方・事例検討	2
	実践記録・日案	2
実技（10）	手遊び・パネルシアター・絵本の読み聞かせ	5
	ピアノ・うた・表現・リズム	5
その他（8）	はじめの1年は実習やフリーが必要	2
	現場で学ぶもので身につくものは多い	2
	実践してみて不足を学ぶ	1
	意欲がなければ実践はない	1
	大学で学んだもので無駄なものはない	1
	大学で学んだもののうち役にたったのはピアノと手遊びくらい	1

とは何なのか、を体験的に知ることなしには、十分な理解はできないものであるといえよう。

実技としては、手遊び、パネルシアター、絵本の読み聞かせ、ピアノ等があげられている。大学時代でも学習が不十分な内容として指摘がなされていることを考えると、大学時代は基礎的なことをしっかり身に付け、就職後は実践しながらレポーターやテクニックを広げ深めることを望んでいるとも考えられる。この他、子どもとのかかわり方や、保護者対応、事例検討、日案作成、記録のとり方等も挙げられていた。中には「まず実践が大で実践にともなって不足分を勉強しながらやっていく方が効果的」など、大学で学んだことを十分活かさきれていない姿も示された。

#### (4) 養成校で学んできてほしいこと

これから保育者養成校で学ぼうとしている人に、特に学んできてほしいことは何か尋ねたところ、51項目の記述があった。自身の大学での学びを振り返り実践者である今とを考え合わせたの助言とも言える。これらを分類してみると以下ようになる。

- ・保育に対する情熱や子どもへの愛情、保育者としての心構えや社会人としての心構えなど、学ぶというよりは醸成される資質ともいえる内容
- ・幼児理解や発達、発達心理や臨床心理など、子どもに寄り添い子どもを見る目を養うこと
- ・保育の多様化に対応できる知識や技術
- ・現在の母子関係、親子関係、家族に関する内容や

#### 親とのコミュニケーションのとり方

- ・子どもとの触れ合いや実習
  - ・一般常識、会話力、文章力、人間関係の作り方
  - ・手遊び、ピアノ、歌、集団遊び等の実技的なこと
- これらは(3)で挙げられた内容も多く含まれている。日々の保育実践の中でより効果的に学べる部分もあるものの、やはり後に続く保育学生に対しては在学中の学習を勧める、実践者としての経験に裏付けられた意見や要望といえるであろう。

#### 4. まとめ

以上のことをもとに、第1に、保育者を目指す学生が養成校において本当に学んでおく必要があるものは何かということについて考えてみたい。

調査からわかるとおり、養成校での学習に対する期待は全般的に高く、その責任は重大である。しかし、保育に関する様々な内容を平等にまた網羅的に扱う必要は認められない。多様な保育ニーズとともに保育事業が拡大される現在ではあるが、子育て支援や子育て相談・保護者対応、児童虐待等は主として園長・主任研修での要望が高く、救急処置・看護や疾病・安全対策、クラス運営方法、実践記録の書き方等は、初任者研修に求められる。これらと並行して、日常の保育の中で、その時々保護者対応やクラス運営の方法、実践記録の書き方や子ども理解・遊び理解について、園内の同僚保育者からの助言を受けながら学んだり、壁面構成や劇等の実技面

表15 養成校で学んできてほしいこと（全51項目）

資質的な側面・人間性に関して（16）	保育者への意欲・情熱・心構え・謙虚で前向き	5
	信念・姿勢・人生観をもつ	4
	広い視野・興味・関心	4
	考える力	2
	心のゆとり	1
保育の内容・方法等に関して（8）	記録の書き方	4
	実習・実践を積むこと	2
	子どもへの接し方	2
幼児の理解のために（8）	子どもを知る・子どもを見る目・幼児理解・愛情	5
	発達・臨床心理学	3
実技的なこと（7）	歌や手遊びなど	5
	ピアノ	1
	パソコン	1
一般常識・人間関係等（6）	人間同士のかわり方	3
	礼儀・挨拶・ことば使い	2
	仕事に必要なこと・職場の中での役割を知る	1
親子関係・家族を支えるために（2）	母子関係・親子関係・家族の理解	1
	保護者とのコミュニケーション	1
保育の多様化への対応（1）	多様化に対応	1
その他（3）	のびのび遊ぶ	1
	養成校の目的の理解と保育現場で必要とされることの共通点と相違点の理解	1
	相談できる仲間を作っておく	1

の充実を図ったりしていくことになる。従って養成校では、意識的に保育実践の理論的基盤となる心理・保育・福祉系のいわゆる原理系科目の充実と、独習や短期間での修得が難しい実技（ピアノ、音楽等）の充実、他では学習しにくい一般教養科目、そしてひととおりの保育実践能力の育成（実習の充実）を図っていく必要があるといえる。

原理系科目の学びには、実践が欠かせない。例えば、乳幼児の発達を理解すること、子どもの抱える問題を捉えること、子どもの視座に立って援助すること、保育における環境構成の重要性を知ること、保育者の役割等々の学内で学んだ内容は、実践場面でそれらを経験し、実践を通して納得することで理解を深めていくことができる。そのためにも、効果的な学習ができるように1年生前期から保育現場を見学・観察したり、子どもとかかわったりする時間を授業の中で用意することが必要ではないだろうか。従来は、ある程度学習が進んだ段階で、保育の総合的なまとめとして一定期間連続した実習を行ってきた。今後は、学習の折々に、その内容を確

し理解を深めるための短期の実習（保育現場での観察・参加）を行い、実践と結びついた学内学習を実施していくことが効果的ではないだろうか。

また、保育者には幅広い知識や技能が求められるが、その中心は、目の前の子ども一人一人をどのように捉え、理解し、どのような見通しの下でどう援助するかという点であることも、今回の調査から明らかになっている。保育者として成長する中で、結果としてこのような専門性が育つように、養成校においてその基礎を確実に培っておく必要があるといえる。

第2に、保育者養成を4年制大学において実施する場合の科目・内容上の課題についてであるが、4年間という教育期間は一見、短大に比較してゆとりがあると考えられるものの、調査の結果からは、必ずしも保育者養成の期間として十分に活かされているとはいえないことがわかった。一般教養科目については満足感が高く、原理系科目についても一定の評価がされているが、実習や実技系科目については多くの不満が見られる。また、保育職に就いてから

学ぶ方がよいとする内容も多い反面で、その基盤については養成校時代において学修しておく必要があることも示唆している。従って、4年間の見通しの下、広がりと深まりをもつ教養教育を基盤に、4年間という教育期間を最大限に活かした長期実習や、保育現場との連携を通しての保育理論に裏付けられた実技教育などを総合化した、教育の枠組みと内容の構造化が課題といえるだろう。

- 1) 4年制大学卒業保育士数について、1999年に市町村に聞き取り調査を行ったところ、過去に採用した保育士数ののべ人数は、岡崎市11名、豊田市35名、刈谷市は不明（採用はしている）であった。また、2000年5月1日現在の幼稚園数と教諭（本務者）数は表16に示したとおりで

表16 2000年5月1日現在 幼稚園数と教諭（本務者）数

	公立幼稚園	私立幼稚園	計
岡崎市	3園	19園	22園
	22人	228人	250人
刈谷市	15園	2園	17園
	141人	12人	153人
豊田市	20園	13園	33園
	135人	157人	292人
合計	38園	34園	72園
	298人	397人	695人

ある。

#### 【参考文献】

- (1) (社)全国保育士養成協議会「保育士養成所教育課程（案）」『保育士養成資料集第30号』2000
- (2) 保母養成のあり方研究会「多様な保育ニーズに対応できる保母養成のあり方について・Ⅱ 研究報告書」(社)全国保育士養成協議会 1997
- (3) 久保いと・水野浩志・民秋言『保育者と保育者養成』栄光教育文化研究所 1997
- (4) 保育士養成課程等検討委員会「今後の保育士養成課程等の見直しについて（報告）」厚生労働省 2001
- (5) 日本保育学会「特集 保育者の専門性と保育者養成」保育学研究第39巻第1号、2001